

○澤川内閣府知財事務局次長 それでは、定刻となりました。本日は御多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから第4回「クールジャパン戦略会議」を開催いたします。

初めに、岡田クールジャパン戦略担当大臣から御挨拶をお願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 お疲れさまでございます。月曜日から大変御多用の中こうして御出席いただきましたことに心から感謝を申し上げたいと存じます。また、日頃クールジャパン戦略の推進に大変御尽力をいただきまして、ありがとうございます。御礼を申し上げたいと思います。

近年、御承知のとおり、クールジャパンを取り巻く環境は新型コロナの影響によって大変厳しいものがありましたけれども、ここに来てインバウンドの回復や農林水産物の輸出の増加など、ようやく明るい兆しが見えてきたものと思います。

また、先日、私も2025年大阪・関西万博の起工式に行っておりましても、今からちょうど2年後に万博が開催されます。これは日本の魅力、そして、クールジャパンを世界に発信するまたとない絶好の機会と、このように捉えているわけであります。

このクールジャパン戦略会議は、クールジャパン政策の新たな施策を打ち出す際に開かれてきたものであります。アフターコロナや万博の開催、これを見据えて、今こそ政府全体でクールジャパン戦略に関する新たな施策を打ち出して、その取組を加速化してまいりたいという観点から、今日お集まりをいただき、関係省庁から直接現場の悩みあるいは今後注力していくべき事柄などできるだけ生の声を伺いたいと思いますし、関係する副大臣、政務官にも御出席をいただき、重ねて御礼を申し上げたいと思います。

限られた時間でありましても、関係省庁で今、行われているクールジャパン施策について共有をいただいて、省庁間の連携強化、政府一体となってこのクールジャパンをしっかりと前に進めて、後世、この時代に本当に日本の魅力を世界に伝えていい仕事をしたと思っていただけるような、そういうクールジャパンのこのチームで頑張りたいと思いますので、何卒よろしくお願いを申し上げます。今日は本当にありがとうございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 大臣、どうもありがとうございました。

それでは、プレスには御退室いただきます。

(プレス退室)

○澤川内閣府知財事務局次長 それでは、議事に入りたいと思います。

まずは内閣府知的財産戦略推進事務局より、資料に沿いまして、この議事の2番にあります「クールジャパン戦略の再構築と本格稼働」について私から御説明をさせていただきます。

資料につきましては、資料1を御覧ください。



ましたとおり、インバウンドは回復傾向にございます。また、コロナ禍ではございますが、農林水産物や日本産のお酒の輸出は絶好調ということでございます。この相互の好循環といったもの、既に各省庁でも取組が始まっていると承知しておりますが、さらにこの相互の好循環を強力に推進するというので、更なる目標達成に向けて努力していきたいということを述べております。

3つ目、「デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの確立」ということで、コロナによりまして、リアルを前提にしてきたビジネスが転換を余儀なくされました。ただ、コロナ禍において、かなりデジタル技術の活用といったものが進んできているかと思えます。右側でございますように、これからはオンラインとリアルを効果的に組み合わせたサービス・ビジネスといったものの展開が期待されると考えております。

4つ目、「発信力の強化」のところでございます。これまででも申し上げてきているところでございますが、日本の魅力をストーリーにして情報発信、海外の人に分かりやすくお伝えすることが重要かと思っております。その意味で、2025年大阪・関西万博は、世界の注目が日本に集まる絶好のチャンスでございます。一体感を持って日本の魅力の発信に努めていきたいと考えております。

5つ目、「クールジャパンを支える基盤の強化」ということで、私ども内閣府がやっておりますクールジャパン官民連携プラットフォームや地方自治体との連携、また、在外公館や関係機関、関係省庁との連携強化が重要になってくるかと思えます。

3ページになりますが、こういった5つの点について、これから御発表いただきますが、関係省庁の施策を整理させていただいたものということでございます。

最後、4ページになります。今、私どもが夏の策定に向けて努力しております「知財計画2023」のアウトラインということでございます。基本的な考え方として「アフターコロナ」の到来、2025年大阪・関西万博があるということでございます。

計画においては、3つの柱で施策を展開しようと考えております。1点目が「埋もれた日本の魅力の発掘」であり、実はクールジャパンの取組が始まってもう既に10年以上経過しております。当時「クール」であったものが今「クール」であるかという目を常に持っていく必要があるだろうということで、身の回りにある埋もれた魅力を常に発掘していきましょう。ここには書いてございませんが、身の回りには外国人、大学生など、様々な視点を活用しながら魅力を発掘していこうということでございます。

2点目が「地域が主役のクールジャパン」ということで、今年の1月になりますが、アメリカのニューヨーク・タイムズで「世界で行くべき都市」の2番目に岩手県盛岡市が紹介されたということがございます。こういった地方都市のポテンシャルがまだまだたくさんあるということで、これを活かしながら魅力を磨き上げて、世界の人から行くべきと思われる地方都市にしていくことが重要かと考えております。

3点目、「『人』が主役のクールジャパン」ということでございます。熱意とアイデアに満ちた「担い手」、クールジャパンの「担い手」、全国に多数おられるのであろうと

思います。こういう方が共創、一緒に仕事ができるような、そういうネットワークをつかっていこうということで、これから私どもは注力していきたいと思っております。

2年後の大阪・関西万博をターゲットとして、今後とも関係省庁と連携して日本の魅力の発信に努めていきたいと思っておりますので、引き続きの御協力をお願いいたします。

私からの説明は以上で終わらせていただきます。

それでは、議事を進めたいと思っております。

最初、資料2-1になろうかと思っておりますが、国際博覧会担当より御説明をお願いいたします。中谷副大臣、よろしく申し上げます。

○中谷国際博覧会担当副大臣 国際博覧会担当副大臣の中谷真一です。

大阪・関西万博における取組について、資料に沿って御説明申し上げます。

2ページを御覧ください。大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして、大阪の夢洲を会場に、2025年4月から半年間にわたり開催され、来場者は2820万人、そのうち海外からは350万人を見込んでおります。先週13日には開催2年前を迎え、起工式を執り行ったところであります。これからパビリオンの建設など会場の整備が本格化してまいります。

3ページを御覧ください。国際博覧会推進本部として、万博のコンセプトであります「未来社会の実験場」の具体化に向けた各省庁の様々な施策をアクションプランとして取りまとめております。アクションプランでは、モビリティ、エネルギー・環境など7つを柱としております。空飛ぶクルマや多言語翻訳技術など最先端技術の実証や研究成果の発信に加え、万博来場者を全国へ誘客する取組や食文化や酒類の魅力発信など、観光・食・文化に関する取組も数多く登録をいただいているところであります。

4ページを御覧ください。とりわけクールジャパンに関係する取組としては、内閣府知財事務局から「クールジャパンの総力を結集した機運の醸成」を御登録いただいているところであります。知財事務局を中心に、関係省庁が連携して万博におけるクールジャパンの発信に取り組んでいただければと思います。

5ページを御覧ください。万博がもたらすメリットを大阪・関西だけでなく日本全国が享受できるよう、万博を契機とした交流人口の拡大につながる施策を関係省庁に御協力いただき「万博交流イニシアチブ」として取りまとめております。日本全国で国際交流や観光誘客、文化イベントの実施などの取組、全国各地で国内外との人的交流を生み出したいと考えているところであります。

6ページを御覧ください。イニシアチブの中の取組の一つといたしまして、テーマウィークを実施する予定です。万博の3つのサブテーマ「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」に基づいて、地球規模の課題を週単位でテーマとして設定いたします。各テーマに関するイベントが会場内外、全国規模で実施されることを期待しており、各省庁にも今後御協力をお願いしたいと考えております。具体的なテーマについてはまだ検討中ではありますが、文化に関するテーマも取り上げることとなると考えております。

このように、大阪・関西万博は海外から多くの方々を訪れる絶好の情報発信機会であり、各省庁の施策を発信できる機会やツールも様々用意いたしますので、ぜひ御活用いただければと考えております。

説明は以上であります。

○澤川内閣府知財事務局次長 中谷副大臣、どうもありがとうございました。

それでは、議事を進めたいと思います。

関係省庁の取組ということで、順次御説明をお願いしたいと思います。

まずは、文部科学省より、築副大臣から御説明をお願いいたします。

○築文部科学副大臣 文部科学省文化庁としての御報告をさせていただきます。

資料2-2を御覧いただければと思います。

文化庁では、文化芸術の総合的かつ計画的な推進を図るため、文化芸術基本法に基づき、令和5年度からの5か年を対象とした第2期文化芸術推進基本計画を、この3月に閣議決定をいたしました。

3ページを御覧ください。第2期基本計画では、心豊かで活力ある社会を形成するため「文化芸術と経済の好循環」を実現するべく「ポストコロナの創造的な文化芸術活動の推進」「文化芸術のグローバル展開の加速」など、7つの重点取組を推進することとしております。この重点取組の中で特にクールジャパンに資するものとしては「文化芸術のグローバル展開の加速」が挙げられます。日本文化の海外発信については、私の下にタスクフォースを設置し、具体的な方策について検討しているところでございますが、文化コンテンツの磨き上げや文化芸術の戦略的な海外発信等を通じて、我が国文化の効果的な発信について、より一層取り組んでいきたいと考えております。

その中でも、主な取組の一例としても挙げられていますが、知的財産推進計画において再構築されたクールジャパン戦略の柱④の「発信力の強化」に向けた取組の一つとして、文化庁では文化資源を活用した観光コンテンツの創出等を行う「日本博2.0」に取り組んでおります。4ページを御覧ください。日本博は日本の文化芸術の魅力を国際社会にアピールすることを目的とした官民の大型プロジェクトであり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、日本の全国各地で実施すべく、2018年に始まった取組です。この日本博について、昨年5月、総理を議長とする日本博総合推進会議において日本博2.0としてバージョンアップし、2025年の大阪・関西万博に向けて、文化庁を中心に関係省庁一体となって進めていくことが決定をされました。日本博2.0では、全国各地において最高峰の文化資源を活用した観光コンテンツを磨き上げ、創出していきます。そして、これらを通じて世界中の方々に日本の美と心を体感してもらうことを目的としております。万博に向けて関係省庁の皆様と連携し、日本博2.0を積極的に展開してまいりたいと考えております。

そして、日本博2.0のみならず、日本文化の海外発信には、関係省庁、関係機関等とのさらなる連携が不可欠でございます。引き続き関係省庁の皆様の御協力のほどよろしくお願

い申し上げます。

以上でございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 築副大臣、どうもありがとうございました。

岡田大臣、御感想なり御意見があればよろしく願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 築副大臣、本当にありがとうございます。

この後も各副大臣、政務官の御発言の後に私が所感めいたことを申し上げたり、少しお尋ねを申し上げたいと思います。政務、事務、どなたが教えていただいても結構ですし、あるいは後日ということでも結構でございます。

今の文科省文化庁の発表では、「日本博2.0」で文化資源を活用した観光コンテンツの創出、磨き上げが大阪・関西万博のプロモーションを意識したものとなっていて、大変すばらしいと思います。文化芸術の観点から外国人の関心を引き寄せて誘客が期待できますし、私、官房副長官をしていたときに、東京オリパラに併せて日本博を担当していたのですが、コロナでほとんどがバーチャルになってしまったということがあって、今回はリアルでぜひ期待をしているところであります。

4ページの「日本博2.0」について、今後大体全国の何か所で幾つのプログラムが予定されているか、またその中でどのような取組が目玉になると思われるか、あるいは観光コンテンツの磨き上げというところで具体的にどのような取組が行われると期待されているか、教えていただけたら大変ありがたいと思います。

○澤川内閣府知財事務局次長 築副大臣、お願いいたします。

○築文部科学副大臣 お答え申し上げます。委託型と補助型という2つの類型の事業がございまして、委託型は採択されているのが37件ございます。応募総数は75件ございました。補助型は採択が11件、応募は30件ございます。全国各地、様々な事業展開がございまして、目玉として考えてございますのは、先ほど申しましたように、この万博の会場内において日本博のプロモーションを実施したいと考えておりまして、そこでの発信を通じてそれぞれの各地域への送客に、観光で万博にいらした方にどんどん全国を回っていただくような、そのような機会にできればと考えているところでございます。

いずれにしても、今回観光の推進をテーマにこの日本博は組成されておりますので、いろいろな省庁、観光庁をはじめいろいろな方々と交通手段などのそういう観光のモデルコースの開発といったものも含めて、取組を積極的に展開してまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

この前、私は京都で開庁した文化庁へ伺ったのですが、そこで文化観光推進本部と食文化推進本部という2つの本部を設置されたと聞いて、これはすばらしいなと思いました。今の観光コンテンツということにも絡んでくると思いますし、ぜひ国交省観光庁とも連携をされて、あるいは食文化でしたら農林水産省とも連携をさせていただいて、進めていただければありがたいと思いました。よろしく願いします。

○築文部科学副大臣 ありがとうございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 築副大臣、どうもありがとうございました。

次に、国土交通省、石井副大臣からよろしく願いいたします。

○石井国土交通副大臣 国土交通省観光庁でございます。

資料に沿って御説明いたします。

表紙をおめくりいただきまして、1 ページを御覧ください。クールジャパンの柱の一つでありますインバウンドの状況でございます。昨年9月まで低迷をしておりましたけれども、10月以降は個人旅行の再開をはじめとします水際措置の緩和によりまして、徐々に回復傾向にございます。グラフの一番右でございますが、今年の2月はおよそ147万人の外国人旅行者が日本を訪れたところでございます。この数字はコロナ前の2019年と比べますと、6割弱の水準となっております。ちなみに、入国を制限していました中国を除いて比較いたしますと、8割弱まで回復してきたところでございます。

2 ページを御覧ください。先月閣議決定されました観光立国推進基本計画におきましては、2019年の3188万人という実績を2025年までに超えるという目標、あるいは旅行消費額5兆円の早期達成を目指すといった目標が示されております。

3 ページを御覧ください。インバウンド回復のためには、各省が連携をし、戦略的なプロモーションを行うことが重要でございます。具体的には、クールジャパンの海外展開に加えまして、日本の食文化や大阪・関西万博などに関する情報発信といった施策が基本計画の中に位置づけられております。

4 ページを御覧ください。インバウンドの回復などに向けて、現在我々が特に力を入れて取り組んでおります観光再始動事業につきましてでございます。全国各地で観光回復の起爆剤となりますよう、特別感のある演出によりまして、観光資源の付加価値の向上を支援する事業となっております。

5 ページは採択事例の一部でございます。アート、伝統文化、アニメ、日本食といったクールジャパンと関係のある事業も採択いたしております。関係省庁の皆様におかれましては、2月に公募した際、多大なる御協力をいただきまして、この場をお借りいたしまして、感謝を申し上げます。おかげさまで全国から1,000件近くの応募がございまして、そのうち139件を採択させていただきました。地域からの反響、期待も大変大きな事業でございますので、現在2次採択に向けて公募を行っているところでございます。引き続きの御協力をお願い申し上げます。

最後に、6 ページを御覧ください。大阪・関西万博が開催される2025年に向けまして、インバウンドの本格的な回復と全国への誘客を図るべく、様々な関係者と連携しながら日本の魅力を世界に発信してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 石井副大臣、どうもありがとうございました。

では、岡田大臣、よろしく願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 石井副大臣、ありがとうございます。

インバウンドが急速に戻りつつあるということで、これに弾みをつけるための大阪・関西万博にしたいと。私は国際博覧会担当大臣としてもしっかりと連携を取っていきたいと思いますし、万博で350万人の外国人の訪日を見込んでいるわけでありませうけれども、これを万博交流イニシアチブと万博のアクションプランの中にも位置づけたのですが、日本全国が万博のメリットを共有できるようにということで、この万博に来られる350万人の方々にどう全国に誘客をするか、特に、いわゆるゴールデンルート以外のところに日本全国くまなく旅していただくために、何かお考えがないかお聞かせいただければありがたいと思います。

○石井国土交通副大臣 今、大臣が言われたとおり、インバウンド回復の大変重要な足がかりになるのが万博だと思っております。このため、従来から力を入れております訪日プロモーションの中で、万博に焦点を当てた特集を組むといった注目度を増すための取組を検討中でございます。これは例えば国内外の旅行会社に対しまして、万博の見どころを積極的にプロモーションしてもらい、こういう取組を検討中でございます。

また、その結果、実際に関西を訪れた方々にいかに大臣が言われたようにほかのエリアまで足を延ばしていただくか、全国各地の魅力に触れてもらえるかという点が一番重要な課題になると考えております。目玉となる仕掛けは観光再始動事業だと思っております。大阪・関西以外でも外国人観光客に興味を持ってもらい、御満足いただけるような特別な仕掛け、これは例えば大自然の魅力を活かした新たな体験の提供であったり、本当に特別な体験を外国人のお客様に体験してもらい、このような観光再始動事業、これが大変重要かと思っております。そうした中で、地域のポテンシャルを磨き上げまして、世界に向けて発信していければと考えております。

また、コロナ前からインバウンドが特に弱い地域、コロナになって弱いのではなくて、コロナの前からインバウンドが弱い地域に対して、2次公募の中でも少しでも多くの提案がなされればと感じております。よろしく願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 それでは、石井副大臣、どうもありがとうございました。

次、農林水産省、角田大臣政務官からよろしく願いいたします。

○角田農林水産大臣政務官 農林水産省におけるクールジャパンに関する取組として、農林水産物・食品の輸出促進、食文化の魅力発信について御説明をいたします。

お手元の資料2-4を御覧ください。

1 ページを御覧ください。2022年の農林水産物・食品の輸出額は、過去最高の1兆4148億円を記録しました。外食向けがコロナによる落ち込みから回復したことに加え、円安による競争環境の改善も追い風となりました。

2 ページを御覧ください。2025年2兆円、2030年5兆円の輸出額目標の達成に向けては、昨年の通常国会で農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律を改正したほか、輸出関

係閣僚会議において輸出拡大実行戦略を見直し、マーケットインの発想で輸出に取り組むこととしています。この中で、海外で評価される日本の強みがある29品目を輸出重点品目として選定し、各品目についてオールジャパンによる輸出促進を行う品目団体の認定制度を設け、これまでに17品目9団体を認定しました。ほかにも、特にクールジャパン戦略と関連が深いインバウンドとの連携も掲げています。

3 ページを御覧ください。輸出拡大に向けては、各国における日本食・食文化の魅力発信が重要であり、この海外への魅力発信の拠点として、在外公館やJETRO海外事務所等を構成員とする輸出支援プラットフォームを6か国・地域で設立いたしました。

4 ページを御覧ください。日本産食材を積極的に使用する海外のレストラン等を「サポーター店」として認定するほか、外国人料理人の育成にも取り組んでいます。日本食・食文化の普及事業の一環として、昨年9月にニューヨークで行われた国連総会では、岸田総理に日本酒で乾杯の御発声をいただきました。

5 ページを御覧ください。特に現地消費者向けの情報発信に力を入れるため、JETRO内に創設されたJFOOD0において、動画コンテンツの作成やPRイベント等の現地プロモーションを行っています。

6 ページを御覧ください。海外の消費者だけでなく訪日外国人向けの情報発信も極めて重要であり、インバウンドの回復を機に、輸出促進と観光の連携をさらに進めていく必要があります。JETRO・JFOOD0とJNTOは昨年12月に相互連携に関する覚書を締結し、SNSを活用して訪日外国人向けの情報発信を進めています。

7 ページから9 ページについて説明いたします。訪日外国人に対して日本の魅力的な食や食文化体験を提供し、日本の食への関心を高めることにより、インバウンドと輸出の促進につなげるため、SAVOR JAPAN認定制度による農泊地域の創出や、9 ページにありますように、食かけるプロジェクトによる多様な食体験の優良事例の表彰とプロモーション等の支援を行っています。

10 ページから12 ページについて説明いたします。地理的表示保護制度、GIは、地域特有の自然や文化、風習の中で育まれてきた製品の魅力や強みを見える化するとともに、名称を保護するものです。11 ページに示しておりますが、その地にしかない産品、御当地ブランドのあかしとしてGIを活用し、その地を訪れる呼び水として観光とタイアップする取組を推進するほか、12 ページに示したとおり、GIマークにより競合する外国産品との差別化がなされ、ジャパンプランドのアピールや輸出の促進に寄与しております。

13 ページから14 ページについて説明いたします。ライフスタイルの変化などにより、日本の食文化の継承が難しい状況となっています。このため、地域固有の多様な食文化の保護・継承に向け、郷土料理をデータベース化した「うちの郷土料理」、伝統的な加工食品についてデータベース化した「にっぽん伝統食図鑑」というウェブサイトを創設しています。翻訳したサイトもありますので、海外での情報発信に御活用いただいております。

15 ページを御覧ください。大阪万博は海外へ日本の食・食文化の魅力を発信する絶好の

機会になるため、万博ならではの新技术を使った食文化体験の展示などを通じ、日本の食を大いにPRしてまいります。

最後に、今年の12月には、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されて10周年を迎えます。関係者や関係省庁とも連携しながら、日本の食・食文化の発信による輸出拡大に取り組みたいと考えておりますので、御協力を何とぞよろしくお願いを申し上げます。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

それでは、岡田大臣からよろしくお願ひいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 角田政務官、ありがとうございます。

大変この農水省全体としてインバウンドと輸出促進の好循環ということを推進していただいてありがたいと思いますし、このコロナの間も伸び続けていることが本当に驚くべきこととか、すばらしいことであると思います。

この中でも、例えばSAVOR JAPAN、農泊やあるいは食かけるプロジェクトということで、いろいろ意欲的な取組でありますけれども、何か具体的にお勧めの地域などがありましたら、あまり地域性に配慮されずに教えていただければと思います。また、そういうお勧めのどういうところが優れているかといったことも伺えたらありがたいと思います。

○角田農林水産大臣政務官 ありがとうございます。

どの地域も大変に個性にあふれておりまして、非常に魅力的なところばかりなのですが、あえて申し上げますと、栃木県の大田原市を挙げさせていただきたいと思います。この地域は元来、観光資源の乏しさやプロモーション不足などによって、観光客が少ないという課題を抱えておりました。この課題を解決するため、栃木県大田原市では官民一体となって農家民泊や様々な農業体験を提供する協議会を設立して、国内の教育旅行を中心に誘客を図ってきました。その中で、特徴的な取組として、様々な農業体験を取り入れることで乏しい観光資源の中でも付加価値を高め、収益を上げる誘客ができ、旅行者を受け入れる農家への十分な報酬につなげることができたこと、また、国内の教育旅行の受入れにより農家が経験を積んで、より収益性の高い海外の旅行者の受入れが可能となったことが効果的であったと考えております。取組当初は旅行者を受け入れる農家は0軒でしたけれども、現在では100軒を超えるまでになりました。今後は、より多くのインバウンドの受入れに取り組んでいくということとしております。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 そういう好事例がどんどん広がればよいと思います。ありがとうございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 角田政務官、どうもありがとうございました。

次に、財務省に移ります。井上副大臣から御説明をよろしくお願ひいたします。

○井上財務副大臣 財務省です。

財務省国税庁から「日本産酒類におけるクールジャパン関連の取組」について御説明をさせていただきます。

1 ページを御覧ください。昨年2022年の日本産酒類輸出金額は1392億円となりまして、

2021年に引き続き好調に推移をさせていただきました。これも今日御出席の皆様方をはじめ、御協力をいただいた皆様方のたまものだと思っております。また、クールジャパン機構からも日本酒関連の現地事業者への出資を通じて輸出拡大を図っていただいていると承知しております。関係者の皆様方に、この場をお借りいたしまして、改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

日本産酒類の魅力を世界に発信し、海外における日本産酒類のファンを増やしていく余地はまだあると考えておりました。財務省国税庁としましては、取組を一層実施することが必要であると認識しております。

2ページを御覧ください。これからは「クールジャパン戦略の再構築」の柱立ての関連も含めて説明をいたしたいと思っております。再構築の柱②の「輸出とインバウンドの好循環の構築」の関連といたしまして、国税庁では、現地のニーズを踏まえた輸出専門商品の開発や、インバウンドを取り込むための酒蔵ツーリズムとして食文化等の関連など日本産酒類の魅力を伝える取組を支援しているところであります。

次に、3ページを御覧ください。再構築の柱④の「発信力の強化」の関連として、国税庁では外務省のロサンゼルスジャパン・ハウスを活用させていただきまして、令和5年2月に、普段日本酒に触れることがない方々に対しまして、日本酒の魅力を伝えるイベントを実施いたしました。来場者からは今回のイベントで日本酒はモダンでおしゃれな感じになることが分かったなどの好意的な御意見が多く、日本酒の魅力を伝えることができたと考えております。

4ページを御覧ください。文化庁とも連携し、本年3月に「伝統的醸造」をユネスコ無形文化遺産に登録するため、提出をさせていただいたところであります。

5ページを御覧ください。国内外でも日本産酒類のPRを行い、魅力を発信しているところであります。令和6年11月の決定に向けて努力をして、ユネスコの無形文化遺産を何とか取りたいと思っております。文化庁をはじめ、各省庁の皆様方に御協力を改めてお願いをしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

6ページを御覧ください。今月からG7の各大臣会合が全国各地で順次開催されております。各会合のレセプションの日本産の酒類の活用やプレスセンター等でのPRについて、各省庁の皆様方に御協力をいただいているところであります。例えば早速現在開催されております長野県軽井沢の外務大臣会合では、資料の写真のようなPRブースを設置させていただきました。財務大臣会合でもしっかりPRをしていく所存でございます。各省庁には、この場をお借りいたしまして、それぞれの会合でのPRに御尽力、御協力をいただいていることを改めて感謝申し上げますとともに、引き続き御協力をお願いしたいと思います。

今後も大阪・関西万博を含め、様々な機会を通じて日本産酒類の魅力を世界に発信し、より一層ファンを獲得できるような取組をやってまいりたいと思っております。

以上です。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

では、岡田大臣、よろしくお願ひいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

私も財務副大臣のときは井上副大臣と同じこのクールジャパンのお酒の仕事をさせていただいて、御尽力に感謝申し上げたいと思います。

日本酒の海外展開に御尽力でありますけれども、今の海外からの日本酒に関する反応はどうかということと、更なる輸出拡大のためにはどのようなPRをしていくことが効果的か、あるいは酒蔵ツーリズムも大変面白いと思うのですけれども、これも具体的にお勧めの地域があって、どのようなところが優れているのかを教えていただけたらありがたいと思います。

○井上財務副大臣 ありがとうございます。

具体的な酒蔵ツーリズムに関しましては、一つの事例を挙げますと、京都の先ほどお話がありました食文化と連動しておりまして、食と酒はワンセットということもあって、京都の食文化と伏見の酒蔵ツーリズムを組み合わせたラグジュアリーツアーなどの企画をする事業者などがありまして、そのほか、各事業者にも参考となるような取組について、横展開も含めしっかり支援をしていきたいと思っております。酒蔵ツーリズムの中には、酒蔵を見学するもののほか、実際に酒造りの体験や地域の農産物の料理などと連携したツアーに参加をされる方々もたくさんいらっしゃいまして、今後は訪日外国人に魅力を伝えるために、臨場感を持った能動的な体験ができる付加価値の高い酒蔵ツーリズムを支援していきたいと思っております。

それから、万博ですけれども、万博も会場内で日本産のPRを行うことは当然やらせていただきますけれども、会場内だけではなくて会場外での取組も重要であると考えておりまして、様々なツーリズムの企画について補助金を支援することによって、関西地域の事業者も多く活用させていただいております。万博の機会を活用した地域ツーリズムの促進については、観光庁や農林水産省で検討を進めていただいていることに一緒にサポートさせていただいて、各省庁が連携をして効果的なPRが不可欠だと感じております。そのため、内閣官房国際博覧会推進本部の事務局とも密接に連携を取って進めていければと感じております。

以上です。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。万博の会場内外でぜひよろしくお願ひいたします。

それから、日本酒、焼酎、泡盛等のユネスコ無形文化遺産登録でありますけれども、私は沖縄担当大臣もいたしておりますので、泡盛をぜひよろしくお願ひ申し上げたいと思うと同時に、この輸出のグラフを見ますと、ここまで日本のウイスキーが伸びてくるとは思いませんでした。これはこれからの日本の大きな売りになり、また、クールジャパンの日本酒ももちろん大事でありますけれども、日本のウイスキーをさらに伸ばす工夫も必要なのではないかと思っております、この点もよろしくお願ひを申し上げます。

○井上財務副大臣 分かりました。

○澤川内閣府知財事務局次長 井上副大臣、よろしいですか。

○井上財務副大臣 はい。

○澤川内閣府知財事務局次長 では、井上副大臣、どうもありがとうございました。

それでは、環境省に移らせていただきます。山田副大臣から御説明をよろしくお願いいたします。

○山田環境副大臣 環境省です。

資料2-6を御覧いただければと思います。

表紙をめくっていただきまして、2016年に政府が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」を踏まえ、環境省では国立公園満喫プロジェクトを推進してきました。国立公園満喫プロジェクトでは、優れた自然を守りつつ、利用の推進を図ることで、地域が活性化し、自然環境の保全への再投資が進む、保護と利用の好循環を生み出すことに取り組んでおります。2020年までに国立公園の訪日外国人利用者数を1000万人に増やすことを目指し、当初8つの国立公園において集中的に取組を実施してきました。国立公園のプロモーション、施設改修、Wi-Fi整備、多言語化などの各取組は順調に進展し、年間外国人利用者数も200万人近く増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の利用者数が大幅に減少し、地域の事業者も大きな打撃を受けました。2021年度からは、国立公園満喫プロジェクトの取組を全34国立公園に水平展開し、国内外の利用者の回復促進を図っているところです。

次のページに参ります。取組内容とその成果の事例を御紹介します。伊勢志摩国立公園においては、英虞湾を一望できる横山展望台を再整備するとともに、一部を天空カフェテラスとして民間開放するなど、魅力的な利用拠点づくりを行いました。大山隠岐国立公園においては、町が廃屋を撤去するとともに、カフェや土産物を販売する「大山参道市場」を整備するなど、各地の利用拠点において景観改善及び跡地の民間活用を推進しました。中部山岳国立公園においては、利用者が寄附という形で登山道維持管理に参加する仕組みの実証実験を導入するなど、利用者負担の仕組みづくりを各地で推進しました。阿蘇くじゅう国立公園においては、E-bikeを活用したサステナブルツアーを実施するなど、自然体験コンテンツの磨き上げを行いました。磐梯朝日国立公園においては、キャンプ場でのワーケーションキャンプやアクティビティーの開発を行うなど、コロナ禍における自然、健康への関心の高まりやライフスタイルの変化を受けた新たな利用を推進しました。また、国立公園全体について、日本政府観光局（JNTO）との連携やSNSの活用など、国内外へのプロモーションを強化いたしました。

次のページにまいります。また、国立公園では、脱炭素化や脱プラスチックも含めたサステナブルな観光地づくりの実現にも取り組んでいます。その一環で、国立公園をカーボンニュートラルのショーケースとし、利用者に脱炭素型の持続可能なライフスタイルを体験していただくため「ゼロカーボンパーク」を推進しています。現在国立公園が所在する

11自治体を登録し、環境省直轄施設、モビリティ、ホテル・レジャー施設、体験型ツアーなどにおける脱炭素化の取組を、地方環境事務所で伴走支援しております。

次のページです。今後はインバウンドが再開する中、世界中から集まる観光客に国立公園を訪れてもらうために、美しい自然の中での感動体験を満喫できるような滞在環境の整備を推進していく必要があります。このため、国立公園満喫プロジェクトの新たな展開としまして、民間事業者からの提案を踏まえながら、宿泊施設を中心とした利用拠点全体の魅力を向上させるための検討を進めています。本年1月に検討会を設置し、具体的な事例の創出に向けて、地域連携の在り方や宿泊施設の役割、対象地域選定の考え方について、議論を進めています。有識者や事業者、自治体の皆様の御意見を聞きながら、6月を目途に実施方針を取りまとめ、本年度中に具体的な事業実施地域を決めていく予定です。こうした取組は、新たな観光立国推進基本計画も踏まえ、関係省庁の皆様とも連携しながら進めさせていただきたいと思っております。そして、質の高い自然体験活動や魅力的な滞在環境の整備等により、国立公園の魅力をさらに高めるとともに、2025大阪・関西万博に向けて、その魅力の発信、プロモーションを強化し、優れた自然を守りつつ、より一層の地域活性化につなげてまいります。

以上です。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

それでは、岡田大臣からよろしくお願ひいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

国立公園の活用の中でも、例えばゼロカーボンパークということはサステナブルという世界の今の価値観のトレンドにも沿った取組であり、本当に大切なことであろうと思っております。

また、資料の5ページに、国立公園満喫プロジェクトの展開として「国立公園の利用の高付加価値化」と書かれていて、これは大変興味深いと思っております。「民間提案による整備」とも書かれておりますけれども、民間提案を取り入れることで国立公園や周辺の地域はどのように変わっていくという期待があるか、あるいはモデル地域選定中ということでもありますけれども、これも先ほどからのお勧めで、どういうところが具体的に有望であるかを教えていただけたらありがたいと思っております。

○山田環境副大臣 国立公園満喫プロジェクトの推進に当たっては、現在集中的に取組を実施しております12の国立公園において地域協議会を設置し、関係省庁と地域の関係者との協働体制を構築しております。これらの公園ではステップアッププログラム、利用の行動計画を策定して、関係者の連携の下、利用の促進に取り組んでいるところでございます。

国立公園には自然保護官、レンジャーがいるのが強みでございます。地域のコーディネーターとして、国際観光旅客税なども活用させていただきながら、しっかり取り組んでまいりたいと思っております。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

国立公園、これまで環境の保全や保護が専らだったかと思えますし、それは依然として本当に一番大事なことであると思うのですけれども、そこに観光客の方やいろいろな方が来て楽しめる、そういう国立公園の「上質なホテル等」と書かれてありますけれども、こういう取組を積極的にしていただけたら大変ありがたいと思いました。よろしくお願ひします。

○澤川内閣府知財事務局次長 山田副大臣、どうもありがとうございました。

続きまして、経済産業省に移らせていただきたいと思います。中谷副大臣からよろしくお願ひいたします。

○中谷経済産業副大臣 御説明申し上げます。

世界経済のグローバル化、成熟化やアフターコロナの経済活動の本格的な再開に伴い、クールジャパン政策はこれまで以上に重要となっております。経済産業省といたしましても、再構築されたクールジャパン戦略に沿ってアート、デザイン、ファッション、コンテンツなど、文化経済領域の推進及び海外需要の開拓にあらゆる施策を総動員し、支援をしてまいります。以下、資料に沿って御説明いたします。

2 ページをお開きください。アート、デザイン、ファッション、コンテンツ等、文化産業はそれ自体が成長産業であるだけでなく、他産業の差別化・高付加価値化等を促し、海外需要の獲得、地域活性化に資する重要な産業であります。経済産業省では、文化資源を経済的価値につなげ、経済資源をクリエイターに還元し、更なる活動につなげる好循環を確立することで、市場の活性化、海外需要の獲得、地域活性化につなげてまいります。こうした取組を通じて、クールジャパンの戦略の第2の柱であります「輸出とインバウンドの好循環の構築」、第3の柱であります「デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの確立」を中心に、それぞれの柱に貢献します。

各分野の取組について御説明申し上げます。3 ページをお開きください。我が国のアート市場は世界の1%とまだまだ小さく、アーティストの収入源や制作・発表の場も限定的であるという課題を抱えております。そこで、経済産業省では、例えば企業の収蔵庫に眠っているアートを匿名で公表し、そこで得られた収益を現代アーティストに還元するなど、アートと経済界との連携体制の構築を進めてまいります。また、公共空間や遊休資産をアーティストの制作・発表の場として提供することで、アーティストの活動場所を広げつつ、同時に、地域側にとっても地域の魅力向上につながるような取組も進めております。さらに、事業再構築補助金の成長枠にもアート産業を追加するなど、アート投資を促進することで我が国のアート市場の活性化を実現してまいります。

1枚おめくりいただいて、次に、デザインであります。我が国において過去に作成されたデザインの資源が散逸しており、諸外国と異なり、産業競争力強化や教育基盤として活用できていない問題や、都市圏にデザイナーが集中し、地域におけるデザイナーが不足しているといった課題が指摘されております。そこで、例えば全国各地の企業ミュージアム等に収蔵されているデザイン資源を経済産業省が調査したところ、1,500の美術館にデザ

イン資源が収蔵されていることが分かりました。それらをネットワーク化いたしまして、デザイン資源の活用を促進するとともに、ジャパンデザインとして世界に発信し、観光需要の獲得などに努めてまいります。また、自治体に対してデザイナーと連携するノウハウをまとめたガイドブックを策定し、都市に偏在するデザイナーの力を地域の活性化にも活かしていくことや、さらに、経済産業省の持つ各種補助金も活用し、デザイン投資の促進を行ってまいります。

5 ページであります。ファッションです。日本には全国各地に素晴らしい素材がございます。まだまだ国際的に知名度が低いという問題があります。価格交渉力が弱いことや、昨今、急成長する海外市場やデジタル市場に参入する際、法的ルールを理解が乏しく、撤退を余儀なくされることも多いなどの課題が指摘をされております。そこで、例えば既に世界的な評価を受けているクリエイターと産地をマッチングし海外展開を支援することや、海外ブランドによる素材産地の表記等によるグローバル化の展開を促進してまいりたいと考えております。また、ファッションビジネスを展開する際、法的留意点などを分かりやすく説明した、日本初となるファッションローガイドブックを策定し、新市場の開拓支援を行ってまいります。

6 ページであります。最後に、コンテンツです。日本のコンテンツは世界でも広く認知され、高く評価されている領域であります。海外需要の獲得に向けたポテンシャルの高い分野であると考えております。経済産業省では、コンテンツの海外展開において企画・開発、制作、販売促進、流通といった各フェーズの課題に対応する施策といたしまして、海外展開の足がかりとなる「場」の創出、海外市場の権利者への流通利得の適正分配を促す海賊版対策、海外市場や成長分野に挑戦する先進的な取組の促進といった支援策を推進しております。

7 ページを御覧ください。令和4年度第2次補正予算において、通称JLOXとして200億円の措置をしており、コンテンツ産業におけるデジタル技術の活用や海外展開の促進等の支援に取り組んでおります。

結びになりますが、2025年には大阪・関西万博が開催をされます。万博は我が国の文化を世界に発信し、経済の活性化に取り組む好機であります。万博を契機に、以上の取組を経済産業省といたしましても力強く後押ししていくことで、新たな文化創造に取り組むとともに、後ほど御説明させていただくクールジャパン機構等も活用しつつ海外需要の獲得につなげていくことで、クールジャパン戦略を推進してまいります。

以上です。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

では、岡田大臣、お願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

中谷副大臣は特に経産省と万博と両方兼ねておられるということで、どうか御尽力をお願いしたいと思います。

経産省がどのように日本の文化を発信して経済的な需要の獲得につなげていくかということとは非常に重要な観点で、その点に取り組みいただくことはすばらしいと思います。

一つ教えていただきたいことは、このアート、ファッション、デザイン、それにコンテンツもそうであると思いますが、現時点で世界から日本はどのぐらい評価をされているのか。過去、現在、それから、将来ということになるわけですがけれども、そういうことを教えていただきたいことと、それから、時代を築いてきた各部門の人材がいらっしゃると思うのですが、その後継となるような若手の人材の育成が進んでいるのか。我々があまりよく知らないだけかもしれませんが、そういうことや、あるいはアニメなども日本の売りと思っていますけれども、韓国や中国の追い上げも厳しいと聞いておりますので、こうした状況について教えていただけたらありがたいと思います。

○中谷経済産業副大臣 ありがとうございます。

まず、日本の評価であります。文化経済領域における世界的な評価は高まっていると考えております。例えば世界最大のラグジュアリー企業でありますルイ・ヴィトングループが主催する若手ファッションデザイナーを発掘する世界的なヤングファッションデザイナーズプライズにも、2年続けて日本人がファイナリストに選出をされているということもございます。

他方、人材育成の件であります。我が国は世界のレベルでの活躍に向けた人材育成や若手クリエイターへの機会提供などはまだまだ不十分と認識をしているところであります。今、活躍している個々のクリエイターも重要である一方、世界で評価されるクリエイターを継続的に輩出する環境が必要と考えております。企業や個人がアーティストやデザイナー、コンセプトにお金をしっかり払うようになることが重要ですが、日本人はなかなか払わないのです。これに払っていただけるようになるということと、また、クリエイターと呼ばれる方々に資金が還流していくことが重要と考えています。これがクリエイターの裾野を広げることにつながっていきます。ひいては、世界で評価されるクリエイターが継続的に輩出されるような環境をつくることが重要であります。

アニメについてはリードしておりますが、映像など、今はネットフリックスなどを開けたら韓国のドラマばかりでございまして、こういった意味では、これを巻き返していかななくてはいけないと思っています。そういう産業の分野の構造などもしっかり検討させていただきたいと考えているところであります。

以上です。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

名前を聞けば、これは日本のアーティストあるいはデザイナーと、そのように思われるようなビッグネームをこれからも育てていくことが必要であると思いますので、どうかよろしくお願いします。

○澤川内閣府知財事務局次長 中谷副大臣、どうもありがとうございました。

次に、デジタル田園都市国家構想担当から土生局長、よろしく願いいたします。

○土生内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局長 資料2-8に基づきまして、和田副大臣の代理で御説明させていただきます。

1 ページを御覧ください。「デジタル田園都市国家構想」は、デジタルの力で地域の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図り、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指すものでございます。1 ページにございますとおり、2023年度から5か年のKPIと工程表を位置づけた総合戦略を策定したところでございます。

2 ページでございます。当事務局では構想実現に向けた機運醸成を図るため、デジタル実装の取組を広く募集し、特に優れた事例を内閣総理大臣賞として表彰いたします「Digi田甲子園」を開催しているところでございます。先般開催いたしました冬のDigi田甲子園では、民間の企業・団体を対象として募集をしまして、インターネット投票も実施の上、総理から表彰式していただいたところでございます。

3 ページ以降に内閣総理大臣賞の取組、その他様々な事例を掲載しているところでございます。書類選考を通過してインターネット投票の対象になった46事例、観光分野をはじめとして、クールジャパンの取組と親和性のあるものが多くあると考えております。個々の事例につきましては、御覧いただければと思います。

5 ページでも新潟県の事例あるいは秋田県の事例、観光に限らずデジタル村民を含むコミュニティ形成の地域活性化あるいはシニアeスポーツチームといった取組も含まれているところでございます。こうした事例の海外発信につきましては、総合戦略におきましても、「大阪・関西万博など国際的なイベント等の機会を捉えるとともに、日本の様々な魅力を海外に発信するクールジャパンなどの取組等とも連携」するとしているところでございます。今後もモデルとなる取組を海外に発信・展開してまいりたいと考えております。

6 ページでございますけれども、既に海外向けの発信を様々行っているところでございます。官邸国際広報室と連携いたしまして、海外メディアあるいは国際会議の機会の活用を行っているところでございまして、デジタル庁とも連携しまして、G7デジタル・技術大臣会合の場におきましても構想に関する展示を行う予定でございます。

今後とも関係省庁の御協力をいただきながら、デジ田構想の実現、クールジャパンの推進に向け、各般の施策に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

岡田大臣、よろしいでしょうか。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 一言だけ、これまでの地方創生ともタイアップしていくことが大事であると思いますので、地創ともぜひ連携を取ってやってください。お願いします。

○土生内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局長 御指導ありがとうございます。よろしく願いいたします。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

次に、総務省に移らせていただきます。国光大臣政務官から御説明をよろしくお願いいたします。

○国光総務大臣政務官 総務省でございます。発表の機会をいただきまして、ありがとうございます。

総務省からは、情報通信、放送を所管していることから、放送や情報通信、動画のコンテンツにつきまして御説明をさせていただきたいと思っております。

まず、1 ページを御覧いただければと思っております。こちらのございますとおり、世界全体のコンテンツ市場が非常に拡大をしております。今や視聴時間も1日平均何と3時間以上皆さん視聴しているという統計になっております。そして、市場についても、放送は横ばいですが、動画については1.5倍ほどの急成長を続けている状況でございます。

2 ページを御覧ください。総務省におきましても、今、地方公共団体や地元の企業と放送事業者等が連携をして、日本の魅力を伝えるコンテンツを共同で制作し、海外に発信する取組を支援しております。地域の情報を映像を通して海外に発信することで、「輸出とインバウンドの好循環の構築」に取り組んでいるところであります。

具体的には、3 ページを御覧ください。これはビジュアルでどのような放送コンテンツ、動画コンテンツがあるかということでもありますけれども、このように様々な地域の取組、魅力をうまく放送事業者等とコラボをして、海外に発信するというものでございます。こちらの事例では著作権の関係もありますのでポップカルチャー、漫画などは載せていないのですが、アジアでは漫画などのポップカルチャーや温泉などについて、欧米では自然や文化、歴史などについて関心が高い状況がございます。アジアと欧米でまた一つ違いますのが、アジアでは情報番組形式やドラマ番組の形式が好まれます。一方、欧米では、例えばこの右上の「葛飾北斎に触れる旅」のような知的なドキュメンタリー番組形式のものが好まれる傾向がございます。この辺りは今日隣に武井外務副大臣がいらっしゃいますので、大使館ともぜひ連携をして、より情報ニーズを取りながら、しっかり相手国に刺さるものをつくってまいりたいと思っております。

おめくりをいただきまして、4 ページでございます。放送コンテンツの輸出額は、今、571億円と非常に拡大をしております。総務省の取組といたしましては、まず国際見本市などへの参画を支援して、そこで海外の方に実際のコンテンツを知っていただくという取組を支援しています。一番左下のTIFFCOMが一押しのものでありまして、経産省と総務省で合同で主催をしております。年に1回秋に開催をしておりますが、非常に多くの来客やオンラインの参加がありますので、しっかりとこの部分も支援をして、知っていただくように取り組んでいきたいと思っております。

最後に、少し角度の違う話でございます。総務省では情報通信を所管していることから、大阪・関西万博に向けまして、NICT（情報通信研究機構）という機関で多言語翻訳のアプリを開発しております。この真ん中の「Voice Tra」と英語で書いてあるものがその実際のアプリに該当いたしまして、CMでもやっております「ポケトーク」の中身がこちらの「Voice

Tra」になります。こちらは逐次翻訳では既に社会実装しておりまして、多くの利用がごさいます。大阪・関西万博に向けましては、今度は同時通訳の技術を間に合うように開発を進めまして、ぜひ一押しの我が国が誇るアプリ、多言語翻訳としてしっかり打ち出したいと思っておりますので、認知がまだ低い状況もございますところ、ぜひ御協力をいただければと思います。

以上でございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

では、岡田大臣、よろしく願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

映像コンテンツの重要性が非常に高まっていて、しかも、日本の地域、地方と海外の放送局が共同でコンテンツを制作して発信することで、非常によい結びつきができているという話は大変素晴らしいと思えました。また、アジアはポップカルチャーで欧米は自然や歴史という傾向も教えていただいて、ありがとうございます。

この放送コンテンツの海外展開、反響というのは、かなり強いものが感じられますか。その辺り、実感を教えていただければと思います。

○国光総務大臣政務官 ありがとうございます。

年々非常に多くのフィードバックをいただいている状況でありまして、しっかりそれを仕組みとして外務省や他省庁とも連携をして、よりマーケットニーズに照らしたものにしていこうと努めてまいりたいと思っています。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

それと、この「Voice Tra」は私も体験させていただいて、非常に素晴らしいなど、びっくりするほどかなり精度が高まってきていると思っておりますので、また万博でぜひよろしくお願いいたします。

○国光総務大臣政務官 ありがとうございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 国光政務官、どうもありがとうございました。

次に、外務省に移らせていただきます。武井副大臣から御説明をお願いいたします。

○武井外務副大臣 お世話になっております。外務省でございます。

御説明をさせていただきます。

このクールジャパンの展開に当たりましては、各国ごとのニーズ、また、多様な価値観をよく踏まえていくことが大切であると考えております。外務省では、この各国のニーズや価値観の変化を最前線で捉えておるわけでごさいますので、対外発信ができる海外拠点を用意しているところであります。外務省では、この強みを活かしまして、関係省庁や自治体ともよく連携いたしまして、日本の多様な魅力を発信し、「クールジャパンを支える基盤の強化」、そして、「発信力の強化」に取り組んでおるところでございます。

具体例として3点御紹介したいと存じます。ペーパーを見ていただいて、1枚目を御覧いただきたいと存じます。外務省では、サステナブルなどの新しい視点からも日本の魅力

を発信いたしているところでもあります。例えばこの日バチカン国交樹立80周年のところでもございますけれども、これは金継ぎと申しますが、サステナブル、多様性の観点から、これは今、国連の事務総長のスピーチでも引用されるなど大変注目を集めているわけですが、イタリア及びバチカンにおきまして、専門家による講演と実演を実施いたしましたわけですが、事業後にも現地の修復師向けの指導の依頼が寄せられるなど、大変な好評を博したところがございます。また、ジャパン・ハウスには瀬戸内海の犬島について発信をするとともに、将来的に現地に足を運ぶような契機になるような発信、展示なども行ったところがございます。

また、次の1枚めくっていただきまして「地域の魅力の発信」でございます。これにつきましても、国内での大型行事、そしてまた現地のニーズも踏まえまして、効果的に発信をいたしているところがございます。何といたっても世界に3か所ございますジャパン・ハウスにつきましても、現地また日本双方の専門家の知見を活かした企画を実施しているところでもあります。ロサンゼルスにおきましては、日本の食文化の一つであるラーメンと美濃焼の器の魅力を食体験するとともに、こうして複合的に御紹介申し上げましたところ、会場はもちろん報道でも大変な評判を呼びまして、サンパウロでも同じ企画を実施したところでもあります。また、2025年大阪・関西万博を念頭に置きました事業も実施しているところがございます。イタリアでは在ミラノの総領事館で、姉妹都市関係にありますミラノ市及び大阪市との共催によりまして、写真展、和太鼓公演、また、兵庫県産の日本酒の紹介などを実施いたしまして、約1万人の来場者に大阪・関西の魅力を発信したところでもあります。さらに、私自身も大臣とともに駐日外交団と一緒に連れまして、地方の魅力を紹介する取組を行っております。令和4年度には長崎、山形、宮城、岡山を訪問したところがございます。こういった取組は日本のメディアに取り上げられましたほか、参加した外交団のSNSで各国に発信をされているところでもあります。

もう一枚めくっていただきまして「発信力の強化」でございますが、これも非常に課題でございます。強化する取組を行っているところでもあります。在外公館や国際交流基金を通じまして、日本の地方や日本の魅力を伝える映像作品を提供する事業におきましては、オンライン配信など幅広い層にアプローチをするための工夫を凝らしているところがございます。そしてまた、一部提供作品につきましても、総務省、また、経済産業省など関係省庁の皆様との連携にも取り組んでいるところがございます。

今後も発信力、また、発信の拠点を活かしまして、関係省庁ともよく連携いたしまして、日本の多様な魅力を発信し、また、親日派の裾野を広げる、これも重要でございますので、そういった取組を通じまして、クールジャパンの基盤強化に取り組んでまいり所存でございます。

以上であります。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございます。

それでは、岡田大臣、よろしく願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

在外公館やジャパン・ハウスは本当に海外への魅力発信の基盤であり、クールジャパンの基盤と、この各省庁すべてを通じて外務省のこの在外公館やジャパン・ハウスを最大限御活用願いたいと思います。

ジャパン・ハウスの発信の強化に向けて、今も話が少しありましたけれども、関係省庁でこれを協力してほしいということがございましたら教えていただけますか。

○武井外務副大臣 ありがとうございます。

先ほど来各府省からの御紹介の中でも、先ほど財務省の井上副大臣からも日本酒の話などがありましたけれども、ぜひ外務省だけでは限界がありますし、様々なことをどんどんたくさん持ち込んでいただきたいと思います。特に姉妹都市など、なかなかコロナ禍もあって交流が非常に停滞をしているところもあります。こういったものもコロナも終わりましたので動かしていく、こういったときにもまた外務省の在外公館のコンテンツをぜひ御活用いただきたいと思います。

そしてまた、ジャパン・ハウスにつきましては、今、世界で3か所持つておるわけでございますけれども、それぞれで顔があると思っております。ブラジルのサンパウロなどは現代アートや科学技術など、ロンドンには日本の伝統工芸、地方の魅力、また、ロサンゼルスは非常に食が人気があるなど、それぞれ非常に特徴があるところもございますので、非常に集客が多くにぎわっておりますので、そういったそれぞれの分野の強みなども、今、申し上げましたようなところをまた御参考にいただいて、いろいろと持ち込みをいただければありがたいと思っております。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 ありがとうございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 武井副大臣、どうもありがとうございました。

それでは、時間が押しておりますので、早速次の議題に移らせていただきます。

海外需要開拓支援機構について、経済産業省中谷副大臣から御説明をよろしくお願いいたします。

○中谷経済産業副大臣 経済産業省といたしまして、海外需要開拓支援機構の現状について御報告申し上げます。

1枚資料をおめくりください。当該機構につきましては、日本発のコンテンツ、衣食住、先端テクノロジー、地域産品、観光など、日本の生活文化、地域の魅力を生かし、海外需要の開拓を行う事業等を支援することで、我が国経済の持続的な成長に資することを目的として設立された組織であります。他方、こうした分野の海外需要の獲得では事業リスクが大きく、投資回収までの時間もかかる中で、民間だけでは十分に資金が供給されない案件に対し、呼び水となるリスクマネー等を支援してきたところであります。2ページを御覧いただいておりますが、これまでの出資件数は57件で、エグジット済みは13件となっております。

こうした投資の成果については、3ページのとおりであります。1ページおめくりいた

だきたいと思います。4,795社が機構の投資先企業のサービスを活用して海外事業等を行う、機構の投資額に対して2倍以上の民間資金を誘発するなど、民間企業の海外需要獲得への貢献は見られているというところであります。具体的には、例えば米国大手の動画配信プラットフォーム事業への出資を通じて、60以上の日本企業や自治体等の動画コンテンツを全世界に配信、欧米等に日本食店を展開する事業へ出資し、国内の日本酒等の事業者をマッチングすることで小規模事業者の海外展開を支援するといった形で、政策的な意義を果たしてきております。

他方、収益性、とりわけ2021年度時点での累積損失につきましては、長引くコロナの影響等から、一昨年設定をした257億円という目標を50億円下回る309億円となりました。この309億円の内訳につきましては、1枚おめくりをいただいて、この4ページのとおりであります。半分が設立時からのファンド運営経費の累積で、残り半分はエグジットなどに伴う投資損益と未実現損失の先行計上となっております。

こうした現状を踏まえまして、1枚おめくりをいただきたいと思います。5ページでございしますが、経済産業省及び機構においては、政策目的の実現を前提としつつ、収益性を早期に改善させる観点から、昨年11月に案件組成や投資先への支援強化、専門人材の確保と活用の強化、投資先の管理と資金回収の強化等から成る抜本的な経営改善策を打ち出したところであります。さらに、今回の抜本的見直しの検討結果も踏まえて、今後累積損益の見通しを含めた投資計画を作成したところであります。

もう一枚おめくりください。今回の策定いたしました計画において、長引くコロナの経営等の不確実性の強い状況が当面は継続すると保守的に見込んだ上で、2024年度累積損益の底打ち、2025年度頃から投資回収が本格化することで累積損益が上向きとなりまして、ファンド終期の2033年度においては累積損益がプラス10億円となると見込んでおります。まずは機構において今回の抜本的な経営改善策を着実に遂行していくとともに、機構を監督する経済産業省といたしましても、経営改善が進むようしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。また、関係省庁におかれましても、所管される事業分野に関する助言など、機構との更なる連携促進に力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。

○澤川内閣府知財事務局次長 どうもありがとうございました。

岡田大臣、よろしいですか。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 はい。

○澤川内閣府知財事務局次長 ありがとうございました。

それでは、意見交換に移らせていただきたいと思います。

それぞれ各省からの御発表のたびに大臣とやり取りをさせていただきましたので、残りが8分ほどとなっております。御参加の皆様方からは、先ほどの御説明の際に言い忘れたことや、また、クールジャパン、万博の推進にどうしても言っておきたいということがありましたら何なりと行っていただければと思います。いかがでございましょうか。よろし

いですか。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 先ほどから丁寧に教えていただきました。

○澤川内閣府知財事務局次長 分かりました。

それでは、最後になりますが、岡田大臣から発言をよろしく願いいたします。

○岡田クールジャパン戦略担当大臣 本日は長時間、誠にありがとうございました。

本日の議論を踏まえて、関連施策をブラッシュアップしていただき、「知的財産推進計画2023」に盛り込んでいければ幸いと考えております。

特に今後2点お願いをこの場で申し上げさせていただきたい。一つは、繰り返しではございますが、大阪・関西万博は日本の魅力を発信する絶好のチャンスでありますので、クールジャパンの推進に向けて、先ほども話がありましたけれども、会場の内外で具体的なイベントを実施したいと考えております。そこで各省庁においても万博にターゲットを絞り、日本の魅力を発信できるようさらに御準備をお願いしたい。御協力をお願い申し上げます。

もう一つは、中長期的な取組として、「地域」や「人」を主役とするクールジャパンの推進に向けて、関係省庁との連携強化に取り組んでいただきたいと思いますと考えております。本日は節目のクールジャパン戦略会議ということで、副大臣、大臣政務官にお越しいただきましたが、関係省庁との連携強化や万博に向けた具体的な発信強化の成果について、特に万博の開催まであと2年間ということで、時間はあるようでないこととございますので、事務的な調整を各省庁、横のつながりをしっかりと事務方にも取っていただきますように、副大臣、政務官におかれては御指示いただきますようお願いを申し上げます。

本日は本当にお忙しい中御臨席いただき、心から御礼を申し上げます。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○澤川内閣府知財事務局次長 岡田大臣、どうもありがとうございました。

それでは、時間となりましたので、第4回「クールジャパン戦略会議」を閉会いたします。

各省庁の皆様におかれましては、貴重な御意見をありがとうございました。

引き続きクールジャパン戦略並びに大阪・関西万博におきまして、御協力をよろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。